

**2019年度AO選抜 情報理工学部**  
**「グローバル・ICTリーダー方式」**

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

2019年度 AO 選抜情報理工学部「グローバル・ICT リーダー方式」では、出願書類による受験生の知識・能力の評価と、面接の試験を実施しました。出願者 11 名全員が受験し、厳正なる選考の結果、このうち 9 名が合格となりました（表 1 参照）。

以下では、書類審査および面接について講評を述べます。

表 1 志願者数および合格者数

入試年度	志願者数	合格者数
2019	11	9

**2. 試験内容・評価のポイント**

**(1) 書類審査**

書類審査では、提出された書類を基に、科学技術や情報通信技術への理解・関心の度合いや、志望動機、論理的思考能力や英語の能力などについて評価しました。2019 年度入試の合格者はいずれも非常に目的意識が高く、科学技術や情報通信技術へ高い関心があることが確認できました。また、自分の考えを論理的に記述する能力やそれを英語で表現する力を十分に備えていることが確認できました。

**(2) 面接**

英語による面接試験を実施しました。主に、英語能力や論理的思考力、リーダーシップなどを確認するために、情報理工学部情報システムグローバルコースへの入学を希望する理由や、入学後に学びたい分野・テーマ、高校時代に取り組んだ活動内容、卒業後の将来設計などについて尋ねました。合格者はおおむね、英会話が堪能で英語による面接に対しても不安などを感じる様子は見受けられませんでした。中には海外での学歴を有する受験生もいましたが、短期滞在以外は外国で暮らしたことがなく純粋に学校授業のみで英語を学んだと答えた受験生もいました。また合格者はいずれも、将来に対するしっかりしたビジョンをもっており、情報理工学部で学ぶことや留学生と混ざって英語で学ぶことに対しても期待を抱いていました。

**3. 次年度受験生へのアドバイス**

情報システムグローバルコースでは、入学後の学びはすべて英語になります。日常会話レベルの英語だけではなく、物事を論理的に考える力やその考えを英語で表現する能力を磨いてください。情報理工学部「グローバル・ICT リーダー方式」で合格し、入学

する学生は、学生が自ら問題を発見し解決していく課題解決型学習(Project-Based Learning)の中でリーダー的な存在になることが期待されています。日頃から様々な活動においてリーダーシップを発揮できるように自己研鑽に励んでください。

#### 4. 進学指導上の留意点

ここでは、2.の(1)、(2)で挙げた各試験における指導上の留意点について述べます。

まず書類審査と面接に共通することですが、情報技術に関わる学問分野に、幅広く、強い関心・興味を持っていることが肝要です。情報通信分野について日頃から興味を持ち、新聞記事や海外の ICT 関連ニュースに触れ、情報システムグローバルコースで学ぶ目的意識を高め、将来どのようなことに携わりたいのか、そのためにどのようなことを学びたいのか、といったことについて自分なりにしっかり考えるよう、指導して頂けると幸いです。

次に書類審査についてですが、しっかりとした論理的な英語の文章を書けることが求められます。与えられた題目に対して、自分の考えをよく練り、指定された単語数の中でいかにわかりやすくまとめるかが重要です。情報システムグローバルコースの学びは、英語を基本としているため、様々な科目において英語の文章能力が要求されます。英語で論理的な文章を書く能力が非常に重要であることを指導していただけると幸いです。日頃から、ICT 関連の記事やニュースについて、自分の意見を、ポイントを押えて英語の文章としてまとめる練習を繰り返すといいでしょう。

最後に面接についてです。本入試方式は今年度が 3 回目にあたります。まだ実施回数が少ないため受験生の傾向は分かりませんが、この 3 年間の受験生に限って言えば、英語能力がおおむね高く、ほとんどの受験生はしっかりと受け答えができていました。面接では、面接官が言っていることを理解し、その場で自分の考えをまとめて答えるという、基本的な対話能力が必要とされます。これは大学における教学にも通じるものであり、非常に重要な能力です。予め想定した質問に対して答えるといった面接対策の練習をするのではなく、様々な状況において常に自分の考えをまとめ、それを表現する能力を高めるような指導をしていただけると幸いです。

以上